



シンポジウム

博物館と 文化財の 危機

小泉和子 (登録文化財昭和のくらし博物館館長・
重要文化財熊谷家住宅館長)

「文化財住宅を博物館にする」

岩城卓二 (京都大学人文科学研究所教授)

「対話する史料館」

久留島浩 (国立歴史民俗博物館館長)

「博物館の可能性」

高木博志 (京都大学人文科学研究所所長)

「文化財と政治」

司会:原田敬一 (佛教大学歴史学部教授)

—その商品化、観光化を考える

日時:2018年11月17日 **土** 13時~18時 ●聴講無料、事前申し込み不要

場所:京都大学人文科学研究所本館大会議室

主催 | 京都大学人文科学研究所 〒606-8501 京都市左京区吉田本町
共催 | 京都大学人文科学研究所「近代京都と文化」研究班・「生と創造の探求」研究班
お問合せ | 京都大学人文科学研究所 総務掛 TEL: 075-753-6902 (平日 8:30~17:00)
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp> メールアドレス: z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp



博物館と文化財の危機

—その商品化、観光化を考える



いま日本の博物館・文化財は、「稼ぐ」資源として脚光を浴びている。博物館・文化財の価値は集客力に求められ、「稼ぐ」資源となる文化財の発掘が進行している。それは「保護」中心から「保存・活用」の両立への転換という現在の文化財行政の方向性とも密接に関わるが、博物館・文化財行政の現場は、これまで「活用」を軽視してきたのであろうか。現場では、「活用」を進めていくうえで、何が課題と認識されてきたのであろうか。また、近現代において文化財は、常に「政治」とかかわり、今日、その商品化、観光化が著しい。こうした問題は「役に立つ」ことが求められる人文学の現状とも深くかかわる。そこで、本シンポジウムでは、「活用」に取り組んできた現場の蓄積を掘り起こし、博物館・文化財の現状と未来についての議論を展開し、あわせて人文学が直面する諸問題についても考えたい。

発表者



小泉和子

登録文化財昭和のくらし博物館館長・重要文化財熊谷家住宅館長
専門：日本家具室内意匠研究・生活史研究
主著：『昭和のくらし博物館』（河出書房新社、2000年）
『くらしの昭和史』（朝日新聞社、2017年）



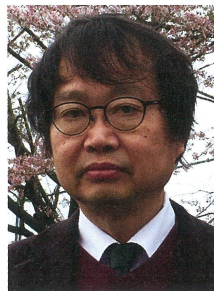
久留島浩

国立歴史民俗博物館長
専門：日本近世史
主著：『近世幕領の行政と組合村』（東京大学出版会、2002年）／『描かれた行列—武士・異国・祭礼』（編著）（東京大学出版会、2015年）



岩城卓二

京都大学人文科学研究所教授
専門：日本近世史
主著：『近世畿内・近国支配の構造』（柏書房、2006年）
『たどる調べる尼崎の歴史』（尼崎市、2016年）



高木博志

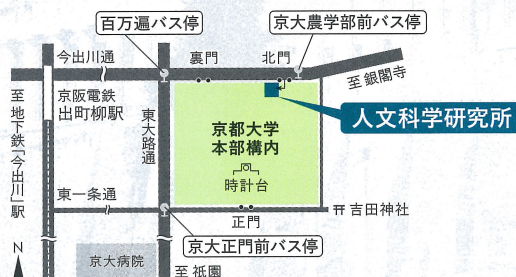
京都大学人文科学研究所教授
専門：日本近代史
主著：『近代天皇制の文化史的研究—天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）／『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

司会



原田敬一

佛教大学歴史学部教授
専門：日本近世史
主著：『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年）
『「戦争」の終わらせ方』（新日本出版社、2015年）



●京阪電鉄「出町柳駅」下車徒歩15分
●市バス 3・31・65・201・206系統「百万遍」下車徒歩4分／17・203系統「京大農学部前」下車徒歩1分
いずれも京都大学北門入ってすぐ右 ※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい

予告

●シンポジウム

マルグリット・デュラス 声の〈幻前〉 —小説・戯曲・映画

講師 | ジル・フィリップ / 澤田直 / 関未玲 / 立木康介 / 橋本知子 / 森本淳生

日時 | 2018年12月1日(土) 10:30~18:00

場所 | アンスティチュ・フランセ関西—京都 稲畑ホール